慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

| | |
|---|---|
| Title | シュトリィダァ教授の アウグスブルク経済史 Das reiche Augsburg: Ausgewhälte Aufsätze Jakob Strieders zur Augsburger und süddeutschen Wirtschaftsgeschichte des 15 und 16. JahrhundertsHerausgegeben von Heinz Friedrich Deininger. (Mnchen. 1938.) |
| Sub Title | |
| Author | 高村, 象平 |
| Publisher | 慶應義塾理財学会 |
| Publication year | 1939 |
| Jtitle | 三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.33, No.9 (1939. 9) ,p.1253(105)- 1265(117) |
| JaLC DOI | 10.14991/001.19390901-0105 |
| Abstract | |
| Notes | |
| Genre | Journal Article |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19390901-0105 |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# シュトリィダァ教授の「アウグスブルク經濟史」

Das reiche Augsburg: Ausgewählte Aufsätze Jakob Strieders zur Augsburger und süddeutschen Wirtschaftsgeschichte des 15. und 16. Jahrhunderts.

Herausgegeben von Heinz Friedrich Deininger. (München. 1938.)

高村象平

## 一

ミュンヘン大學で經濟史講座を擔當されてゐたヤコブ・シュトリィダァ教授が逝くなられてから、今年で滿三年になる。私が教授の訃報に接したのは、伯林オリムピック大會が始まらうとする一九三六年七月末のこと、ミュンヘンでお別れしてから一ケ月になるやならずの時であつた。この年の夏學期の教授の講義は、全部クレメンス・バウァァ助手が代講し、教授はゼミナァルを主宰されるだけだつたし、又私が教授と個人的にお目にかゝる際には、よく身體の具合について話された程であつたが、しかし、日本流に數えて未だ六十歳の教授が、この月二十四日、ガルミッシュの山莊で急逝されようとは、夢にも考へられぬことであつた。私が伯林の宿舍で、教授夫人から訃報を受けた時の感慨は、いま尙記憶に新たなるものがある。

私が獨逸に滯在して居る間、最も親しく教導を得たのは、シュトリィダァ教授と伯林大學のフリッツ・レェリッ

ヒ（Fritz Röhig）教授とからであつた。その專攻の範圍からいふならば、シュトリィダァ教授は、中世末期から近世初頭にかけての南獨逸經濟史の研究に令名あり、レェリッヒ教授は、中世初期・中期の北獨逸經濟史の大家である。或は、この兩經濟圏に於ける中心都市をとつて、シュトリィダァ教授はアウグスブルクと、レェリッヒ教授はリュベックと、離れ難く結び付くといつてもよいであらう。そして研究對象の地域乃至時代の上からは、北と南との相違があり前後の關係があつたものの、兩教授共に、嘗てはほゞ同じ時を、ライプチッヒ大學で助教授として數年過されたのであり、正教授になられたのも同時であつた。即ち、一九三〇年シュトリィダァ教授は、ミュンヘンに新設の經濟史講座を擔當されることになり、二三年正教授に昇進、この年レェリッヒ教授も亦、キィル大學正教授に榮轉されたのであつた。

爾來、兩教授の個人的交際は淺からぬものあつたこと、私がシュトリィダァ教授から、又レェリッヒ教授から親しく伺つたところである。更に、夫々の專攻とされるフッガァ乃至獨逸ハンザの研究成果については、相互に推賞の辭を惜まれなかつた。しかし、兩教授必ずしも常に、同一見解に達せられたとは做し難い。例へば、初期資本主義の概念內容の如きにおゐては、全く越ゆべからざる學問的對立が存したやうである。シュトリィダァ教授は、その著 Studien zur Geschichte kapitalistischer Organisationsformen; Monopole, Kartelle und Aktiengesellschaften im Mittelalter und zu Beginn der Neuzeit, 1. Aufl. 1914, 2. verm. Aufl. 1925. において、初期資本主義概念に新內容を與へられたが、これはレェリッヒ教授の贊同されるところとならなかつた。シュトリィダァ教授の生前に、この論爭が公けに行はれたか否かは、寡聞にして私は知らない。しかし私は伯林でレェリッヒ教授から、かかる概念の使用を避ける方が、歷史事實に忠實な所以であるといふことを、屢々說かれたものであつた。ここでは、この問題について關說することを差し控えるが、レェリッヒ教授の主張は、最近の Historische Zeitschrift 誌上に揭載されてゐるから（Unternehmerkräfte im Flandrisch-Hansischen Raum, Bd. 159. Ht. 2. 1939.）それを參看されたい。たゞ忌憚なく、そして大摑みに私見を述べると、この兩教授の見解の相違は、經濟史の研究に際して、シュトリィダァ教授には經濟學者としての面が、又レェリッヒ教授には歷史家としての立場が、重視されるところから發するものの如くである。

扨て、前にも一言したやうに、シュトリィダァ教授の學問的關心は、主として、中世末期から十六世紀にかけての歐羅巴經濟史、特に南獨逸經濟史に置かれた。更にこの時代の經濟指導者として、アウグスブルクの都市貴族乃至巨商が演じた世界史的役割は、教授の殊更力說されたところであつた。教授が、この後者、就中フッガァに對して多大の關心を寄せられたのは、アウグスブルクのフッガァ文書館を管掌されたことにも負ふところ多いのであらう。Die Inventur der Firma Fugger aus dem Jahre 1527. (1905).; Jakob Fugger der Reiche. (1926).; Die deutsche Montan-und Metallindustrie im Zeitalter der Fugger. (1931). 等の著作、或はその監修された「フッガァ史研究叢書」（現在までに九冊刊行）等、孰れも吾々がフッガァ時代を知る上に缺くべからざるものに屬する。しかも、この個別的研究を進める傍ら、教授はこれ等の個別・特殊が、全體的發展の一部分を構成するものであることを忘れるところなかつた。例へば、前記の「ヤコブ・フッガァ傳」を一讀すれば、それが單なる傳記に終始するものでなく、十五・六世紀の歐洲經濟史の全般的研究書たる實を具へたものでもあることを、容易に認め得るのである。

この教授の留意は、教授がその努力の一半を割かれた資料の蒐集の方針の上からも、これを汲みとることが出來る。即ち、バイェルン・アカデミイの歷史部會、或はバイェルン地方史委員會の二指導者として、「中世・近世獨逸商

業文書集成」の一編纂者として、教授は、經濟史研究上、古文書の研究や新資料の探求に努力すべきことを說かれると同時に、その個々の資料が、時代の全體的構成に對して有する聯關と階序とを看過すべからざる旨を、具體的に示されたのであつた。私は、教授自ら刊行された Aus Antwerpener Notariatsarchiven, Quellen zur deutschen Wirtschaftsgeschichte des 16. Jahrhundert. (1930.) の編纂方針には、これが最も判然と現はれてゐると思ふ。

シュトリィダァ教授が、獨逸經濟史學界に確固たる地位を得たのは、その處女作 Zur Geschichte des modernen Kapitalismus, Forschungen zur Entstehung der grossen bürgerlichen Vermögen am Ausgang des Mittelalters und zu Beginn der Neuzeit, zunächst in Augsburg. 1. Aufl. 1904, 2. verm. Aufl. 1935. によつてであつたといつて大過はない。この書は、アウグスブルクに移住し來れる土地貴族やアウグスブルク都市貴族、更にこの都市の手工業者・小商人にして立身せる者等の資産增殖過程を詳細に研究して、以てゾムバルト教授の近世資本主義成立史論における地代蓄積說を反駁されたものである。即ち資本の本源は、地代の蓄積によつて形成されたのではなく、遠隔地商業が近世資本主義成立の物的源泉であるといふのであつた。この商業起源說は、シュトリィダァ教授の提唱と相前後して、ヴェネチア、フィレンツェ、ケルン、リュベック、ブレスラウ等における指導的初期資本家についての諸研究からも亦歸結された爲め、爾來經濟史家の間には、これが通說となつた。かかる劃期的勞作の發表されてから丁度十年目に刊行されたのが、前記「初期資本主義的企業形態史」である。この書は、既に言及したやうに、初期資本主義なる概念を確立することを、その主要課題の一とする。そして以上の兩著が、十五・六世紀の南獨逸經濟史についての、シュトリィダァ教授の代表作たるものであつたといひ得る。プロピレェン世界史第四卷に掲載された「貨幣經濟と初期資本主義」なる論文は、右の兩著の主要テェマを簡潔に再述されたものである。

シュトリィダァ教授は、前記「ヤコブ・フッガァ傳」の完成後、その後繼者アントン・フッガァの研究を進められてゐた。そして親しく、語られたところによれば、その完成も程遠からぬ豫定のやうであつた。周知の如く、アントンの時代はフッガァ家の最盛時であつたから、この傳記の完成は、ヤコブ傳にも優して、南獨逸經濟史研究上裨益するところ多きものと、私は期待してゐたのであつた。しかし教授の急逝によつて、これは遂に實現されるに至らなかつた。もう一つ教授の逝去によつて中絕されたものに、謂ゆる高度資本主義の研究がある。即ち、教授の晚年は、フッガァ家盛時の研究を纏められる他方におゐて、その研究範圍を十九世紀獨逸經濟史に擴大することに費されたのであつた。この後者に於ける主要方向の一は、一九三三年に發表されたアルフレッド・クルップ傳（Alfr. d. Krupp, Colemanns kleine Biographien, Ht. 30.; Alfred Krupp, in „Die Grossen Deutschen." Bd. 3.）から窺ひ得る。即ちそれは、十九世紀の獨逸經濟發展に貢獻した主要企業家の研究である。第二は、その前年「新帝國」誌上に掲載された「一八五七年の世界恐慌・七三年の恐慌」といふ表題に示されるやうに、十九世紀經濟恐慌史の研究である。教授が、その研究範圍を擴大される場合、先づその時代の經濟的指導者の研究に着目され、その傍ら、その時代の全體的觀察を以てこれを補ひ、且つ兩者の聯關を失はないやう努められることは、既にフッガァ研究において實行されたところであつた。恐慌史の研究が、その時代の全體觀察の上に立たねばならぬことは、敢えて指摘するまでもないところである。そして教授が亡くなられた年の冬學期には、大工業の發展と經濟指導者（企業家）の性格の研究が、ゼミナァルの共同研究課題となる豫定であつた。しかし、研究生にこの問題に就いての有益な示唆を與へられることとなくして、教授は昇天されて了つた。傳ふるところによれば、教授の急逝された月に、我が國から半ケ年の豫定で招聘狀が發せられたといふ。これ亦實現することなくして終つたのであるが、若し教授の健康が長

途の旅に堪えて、我が國の經濟發展を直接見聞されたならば、これが後進資本主義國としての十九世紀獨逸經濟史の研究の上に、尠からず寄與するところあつたに相違ないと考へるのは、私一人の想像だけではないであらう。

## 二

シュトリィダァ教授がその生前發表された著書は、大小合せて十冊、論文は七十餘にのぼる。この中、前者から現在入手するに困難な二つを、後者から十三を、更に放送講演原稿一篇を加えて成つたものが、ここに紹介しようとする表記の論集である。編纂者は、アウグスブルク市文書館長ダイニンガァ氏と、多年シュトリィダァ教授の助手であり現在はフライブルク大學の教授となられてゐるバウアァ氏とである。そして本書におゐて右の諸論稿は、次の如き三篇に大別されてゐる。曰く、第一篇「フッガァ時代の經濟的容相」、第二篇「人物傳」、第三篇「經濟範圍と經濟秩序」。

先づ第一篇に收められたものは、「アウグスブルクの經濟生活とフッガァ時代の經濟精神」(Das Bayerland. 1934.)に掲載されたもの)、「國家の財政窮乏と近世資本主義經濟生活の成立」(Neue Jahrbücher für Wissenschaft und Jugendbildung. 1932.)、「フッガァ時代のシュワァベン商人」(Schwabenland. 1934.)、「南部及び中部歐羅巴初期資本主義の崩壞」(Das neue Reich. 1932.) の四つである。

この四つの論文を通じて、教授の語られるところを摘約すれば、十五世紀末獨逸ハンザの盛時が過ぎ去つた後、獨逸經濟の重心は北部から南部に移つた。そして十六世紀の五・六十年代にかけて、アウグスブルクを尖端とするシュワァベン商人の活躍は頗る目覺しいものがあつた。彼等の營むところは、第一にシュワァベン地方の織物業——特に綿麻交織(バルケント)——と結んだ國際貿易であり、これによつて獲得された財富の多くは、鑛石(銀・銅・錫・鉛・水銀)取引に、次いで鑛山採掘・精錬業に投ぜられ、ここに彼等の間には、産業資本家に轉身する者を輩出したのである。彼等の關與せる鑛山は、獨逸帝國領内に限られることなく、洪牙利・波蘭・西班牙・瑞典・英吉利、扨ては遠く新大陸の西班牙植民地における諸鑛山に迄及んだ。彼等が鑛山業に關與するに至つた契機としては、シュワァベン地方が先づチロル・ベェメン等の豐富な鑛山に隣接せること、小・中鑛業者への前貸・更に當時の諸君侯への貨幣貸付の代償として鑛山特權の獲得等が擧げられる。就中、シュトリィダァ教授が强調せられるところは、この最後の、近代國家成立期における財政窮乏の事實である。これによつて、彼等巨商は、羅馬法王、獨逸皇帝を始めとし英・佛・西・葡等の諸國王や多くの領邦諸侯との連繫を緊密にし、又その助けをかりて、中世經濟・社會觀に發する反獨占運動、その他資本主義的企業遂行に對する諸障害を抑えることが出來た。教授は更に一歩を進めて、この時代における初期カルテルの如きは、商業資本家の創造するところといふよりは、近代國家の財政政策の所産と見るべきであると論斷されてゐる。

この他方、これ等シュワァベン商人が抱き、且つ彼等の歐羅巴經濟制覇を可能ならしめた經濟精神は、一言にしていへば　經濟的個人主義であつた。教授はこれを以て、伊太利ルネッサンスの影響であると見る。(この點は、前記レェリッヒ教授の承服されぬところとなつてゐる。)この經濟的個人主義の好個の具體例は、彼等がヴェネチアより學んだ複式簿記の採用であらう。しかも彼等が個々に右の經濟精神を抱いたのみならず、この精神は、アウグスブルク市會の經濟的自由の政策によつて支援され、以て效果を收めることが出來たのである。そして教授は、アウグスブルクの新經濟精神の代辯者として、當代のヒュウマニストたるコンラッド・ポイチンガァを擧げる。又ハプスブルク王朝の經濟政策も亦、シュワァベン商業資本家の經濟的個人主義の發揮を、一方ならず促進したのであつた。

しかしながら、諸國家財政との結び付きは、彼等をして巨富を累積せしめ、又、初期資本主義的企業家たらしめたのであつたが、この結合が、結局彼等を滅すことになつたのである。即ち十六世紀後半に連續して發生した西班牙や佛蘭西の支拂停止乃至破産は、謂ゆる悪しき循環（舊債の返還を受くる爲めに新たに貸付をする）によつて、これ等諸國家と密接に結び付いた彼等に、莫大な貨幣損失を齎らし、遂にこの金融恐慌によつて、同世紀末年から十七世紀初頭に至る間に、南獨逸の經濟的繁榮は終焉するに至つたのであつた。

第二篇の内容は、次の如くである。（一）フッガァ家（a）ヤコブ・フッガァ（Die Grossen Deutschen. Bd. 1. 1933.）、（b）ハプスブルグ王朝とフッガァ家（Dresdener Anzeiger. 1930, Münchener Zeitung. 1930, Das neue Reich. 1931, Bayerische Hochschulzeitung, 1932.）、（c）フッガァの圖書館設立（Zentralblatt für Bibliothekswesen. 1933.）。（二）ウェルザァ家（Der deutsche Kaufmann. 1936.）、（三）アムブロジウス・ヘッヒシテッタァ（放送講演、一九三六年）、（四）メルヒオォル・マンリッヒ（Der deutsche Kaufmann. 1936.）（五）シュワァベンの三商人（マンリッヒ、デッチヒコォファァ、メルツ）の肖像（Das Schwäbische Museum. 1931.）。即ち本篇においては、歐羅巴初期資本主義的大商人の代表者であり、又個人主義的經濟精神の最もよき具現者であるヤコブ・フッガァを始めとし、以下彼と並んで、國際貿易・鑛山業・貨幣貸付乃至金融業に活躍したアウグスブルク諸商人の事蹟の研究が收められてゐる。

教授によれば、ヤコブ・フッガァは、伊太利人の經濟的合理主義を以て近世的企業遂行の根幹と見て、これを終始遵奉したのであり、「彼は經濟領域に於ける最も意義ある獨逸ルネッサンス人」であつた。しかも彼の後代に及ぼせる影響は、ひとり經濟領域だけにとどまつたのではなかつた。彼は美術愛好者であり、又多くの圖書館の基礎を築いた。彼並びにその一族の書籍寄贈が、その設立の根柢となつたものに、ウィインの宮廷圖書館（現在の國民圖書館）、ミュンヘンの宮廷圖書館（現在の國立圖書館）、ハイデルベルク大學圖書館、アウグスブルクのPredigerorden（ドミニカン派）圖書館等がある。（このフッガァの文化的貢献は、獨逸ハンザ商人――例へばリュベルクのチデマンの影響は大であつたが、しかし彼が鑛山探掘・精錬業を營んだことは、伊太利の影響に基くものではない。この鑛山業がフッガァ家の財富の基本となつたこと、又フッガァがハプスブルグ王朝と密接不離の關係にあつたことは、あまりにも有名な事實であらう。例へばヤコブは、マクシミリアン一世の東歐政策遂行に支援を惜しまなかつたが、皇帝と洪牙利國王との接近の如きは、ハプスブルグ家の政治的擴張策の一結果といふよりは、フッガァの洪牙利鑛山支配の爲めの一政策であつたといはねばならない。尚、ヤコブ・フッガァは巨富を累ねた後、貧民・弱者・病者に對する救濟施設に努めてゐる（例へばフッガライの建設）が、これは、シュトリィダァ教授によれば、彼が「獨逸民族協同體の思想」を抱いてゐたことを示すといふ。

フッガァと競合する立場にあつたのは、ウェルザァであるが、前者が織物工より立身したに對し、後者はアウグスブルクの都市貴族であつた。又前者の會社組織は純粋の同族會社であつて、社員に他人を絶對に交へなかつたに反し、後者においては血族以外の者をも參加せしめ、この爲め社員相互間に利潤分配に關する抗爭を惹起し、これがウェルザァ會社の進展を尠からず阻げた。ウェルザァは十六世紀十年代に、アウグスブルクとニュウルンベルクとに分離してゐる。先づニュウルンベルクのウェルザァ會社は、危險な金融業務を避けて、香料・鑛石の取引、銀・銅の精錬業に力を注ぎ、又買占やカルテル結成は、經濟道德乃至輿論に反する行爲としてこれを採らなかつたが、

然し三十年代末、アウグスブルクの飛躍的發展の前には、事業の中心をここに移さざるを得なくなり、一六〇〇年には遂にニュウルンベルクのウェルザァは解散した。これに對してアウグスブルクのそれは、一時フッガァを壓倒するの勢を示し、一五〇五年葡萄牙の東印度商船隊には二萬ヂュカットを投資（この時フッガァは四千ヂュカット）した程であり、東印度貿易が葡萄牙王室の獨占經營となつて以後は、リスボン又はアンヴェルスにおゐて、東印度香料の歐羅巴配給に優越的地位を占めてゐた。その他南歐のサフラン取引獨占を行ひ、中歐の鑛石取引乃至採鑛・精錬にも從事し、又海外植民地をも經營（カナリィ諸島のパルマにおける土地所有と蔗糖栽培、ヴェネズエラの貴金屬採取等）した。フッガァがハプスブルク王家と結んだに對し、ウェルザァが金融取引を以て連繋したのは、獨・西・葡・英の諸王、就中佛蘭西國王であつた。そして佛蘭西の王室破産を契機として、遂に沒落するに至つて（一六一四年）ゐる。

ヘッヒシテッタァの――他のアウグスブルク巨商と異る――活動領域は、水銀採取とその販賣獨占であり、マンリッヒのそれはレヴァント貿易である。晒布工から立身した前者は、歐羅巴における最大水銀鑛山たるクライン（現在のユウゴォスラヴィア）のイドリア、西班牙のアルマァデンを支配したのであつたが、遂に資力續かず、破産の宣告を受けた（一五三一年）。後者は十六世紀七十年代にマルセイユからレヴァント地方への貿易・航海を――最初は傭船で、次いで自船で――行ひ、シュワァベンの織物業に棉花を供給すると同時に、南獨主要商品たる綿麻交織物や金物を彼地に輸出した。マンリッヒはこの貿易資金として、自己資本のみならず、他から（特に姻戚關係にあるメミュゲンのデッチヒコォファア）の海上貸付を利用してゐる。しかし七四年彼は破産して、ここに「獨逸經濟史における有望な挿話（エピソォド）」は終末を告げたのであつた。

本書の第三篇は、（一）フッガァ時代の獨逸鑛山業と金物工業（Deutsches Museum, Abh. u. Ber. 1931.）、（二）十六世紀における獨逸産金物（カナ）の西阿弗利加輸出（Historische Aufsätze, Aloys Schulte zum 70. Geburtstage gewidmet. 1927.）、（三）十六世紀獨逸大商人のレヴァント通商（Meereskunde. 1919.）、（四）南獨逸大商人と十五・六世紀フランドルの絨壇工業（Der Belfried. 1917/18.）、（五）ヤコブ・フッガァの事業方針と同族對策（Zeitschrift für die gesamte Staatswissenschaft. 1927.）より成る。

第一と第二とにおゐて注目すべき箇所は、獨逸に産する銀と銅との中で、特に後者は葡萄牙の東印度商船隊の主要な積荷となつたといふことの外に、謂ゆるベニン（上部ギネアの東部）文化を飾る眞鍮製の腕輪や足輪等が、西獨逸（アァヘン・ケルン）・南獨逸（ニュウルンベルク）を原産地とするものであつたといふことであらう。それ等は、アンヴェルス、リスボンを經由して、葡萄牙の西阿弗利加植民地（ギネア灣の北邊）に輸出されたのであり、原産地より葡萄牙迄これを運んだのは、十五世紀末年には大ラァフェンスブルク會社、十六世紀初年にはアンヴェルスのシェッツ會社、中葉以降はフッガァであつた。フッガァの參加は、シュトリィダァ教授がアンヴェルス市文書館におゐて發見された資料（一五四八年、葡萄牙王室のアンヴェルズ代理人とアントン・フッガァ會社の手代との間に交された眞鍮製品供給契約）からしても明かである。次に、葡萄牙の西阿弗利加貿易獨占は、十六世紀後半以降、英吉利・和蘭の競爭を受けるが、この場合、これ等競爭者の船載する商品（金物）は、獨逸におゐて生産されたものであつた。そして一五五八年のフッガァの手代の報告に、「黑人は葡萄牙人よりも英吉利人と交易することを好む、蓋し後者は前者よりも廉價に供給するから」とあるのは、暗示に富むものといへよう。尚シュトリィダァ教授は、當時シュレジィエンやヘッセンの織物を西阿弗利加に大量輸出した和蘭商人が、獨逸産の眞鍮・銅製品を該地にどれだけ輸出したかは

後考に俟つといはれてゐるのであるが、この問題の解答は、遂に教授からは聞くことを得ないで終つたのである。

第三のものは、嘗て大塚久雄教授が「十六世紀後半のマルセイユに於ける南獨逸商人の東邦貿易」（經濟志林第九卷第三號）なる論文におゐて紹介されたところであり、前記マシリッヒの事蹟の詳述であるから、ここには述べない。たゞ本書に收められたものは、發表（一九一九年）後、シュトリィダァ教授が參考文獻を增補されて置いたものに據つてゐることを指摘して置かう。

第四の論文における南獨逸商人とフランドル絨壇織匠との結び付きは、後者が高價な原料を調達する資力を缺き、他方その顧客たる諸侯は、多く即座に支拂ひ得ぬ狀態にあつたが爲めに生じたのであつて、織匠ピィタァ・ファン・エルストに對するフッガァの貸付や、ミュンヘン商人とブルッセル織匠との連繫が採り上げられてゐる。最後の論文におゐて、シュトリィダァ教授は、ヤコブ・フッガァに子供がなかつたことが、謂ゆる緣者負に陷ることなく、事業に專心せしめた一因であるとし、事業資產と世襲財產とを別置し、又意識してその會社社員に他人及び女性を交へず、しかもこれを貫徹したところにフッガァの特徵があるといはれてゐる。

以上を以て、本文二〇四頁、挿入せる諸商人の肖像寫眞十二葉、一五一九年ヤコブ・フッガァがカァル五世の皇帝選擧に關しブランデンブルク選帝侯宛に認めた書簡の複製一葉、そしてシュトリィダァ教授の全著作目錄五頁を收錄した本書の紹介を終る。本書を通讀して第一に氣付く點は、同一章句に屢々逢着することである。このことは、かねてシュトリィダァ教授の著書なり論文なりに接する毎に感じた點であるが、本書の如く幾多の論稿が集錄されると、それは特に明かとなる。恐らくこれは、教授がその自說を主張せられること固きに出で、又幾多の問題が同一結論に歸着するところに出でるものでもあらうか。次に本書の內容については、私には尙批判を加へるの餘裕もなく、十五・六世紀の南獨逸經濟史研究者にとつて備ふべきものといふより外はない。最後に、十六世紀獨逸鑛山稼行の狀態を窺ふものとして、Kuttenberger Kanzionale の扉（Titelblatt）に揭げられた圖は、甚だ興味あるものであるが、本書の如く多くの寫眞版を挿入するものにあつては、この一葉を添加して欲しかつたと思ふ。殊に第三篇第一章に當る原本には、この寫眞版が添えられてゐるのであるから。尙本書二五頁二一行目の「一五三二」は、「一五二三」の誤植である。